

# 津ライスニュース 平成29年産第3報

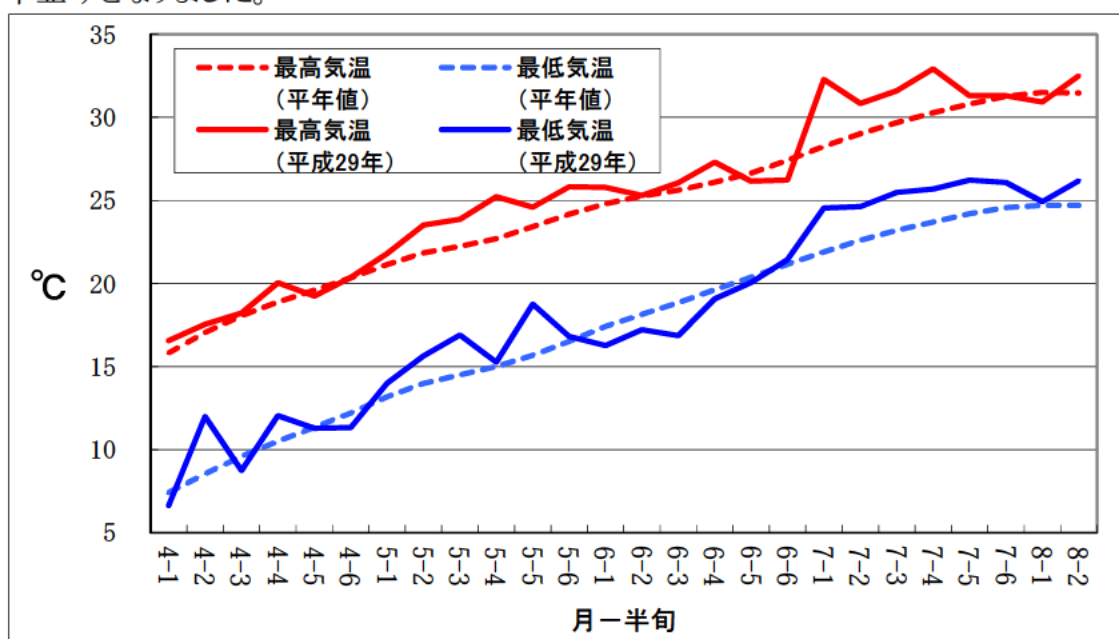
平成29年8月18日

津地域農業改良普及センター 電話:059-223-5103

## 気象経過

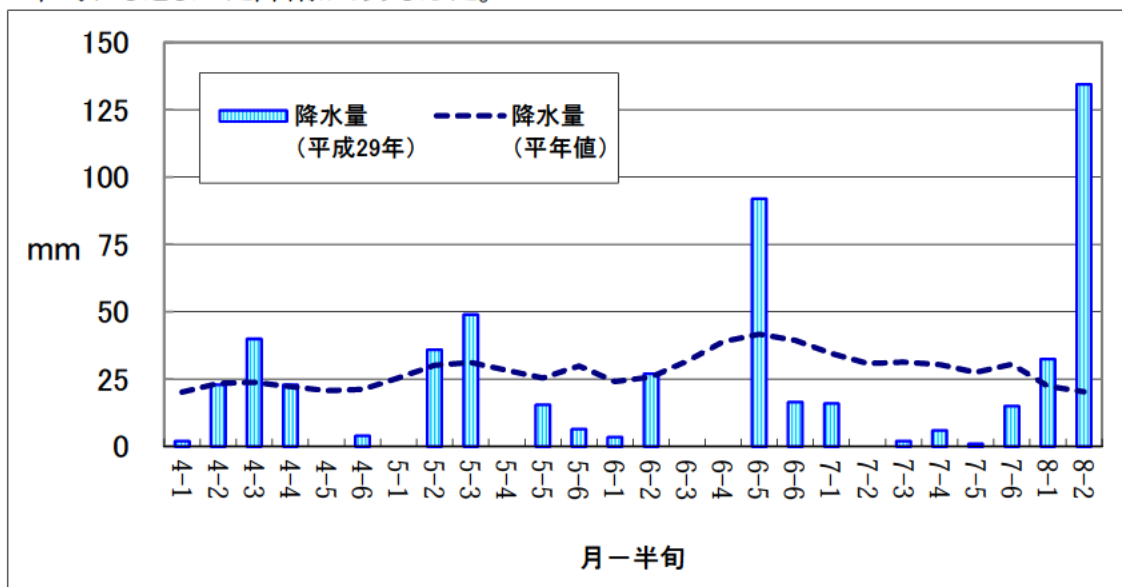
### <気温>

4月～5月にかけて気温はやや高めでしたが、6月は平年並みとなりました。7月は最高・最低気温とも平年よりかなり高く推移しました。しかし、8月に入り気温はほぼ平年並みとなりました。



### <降水量>

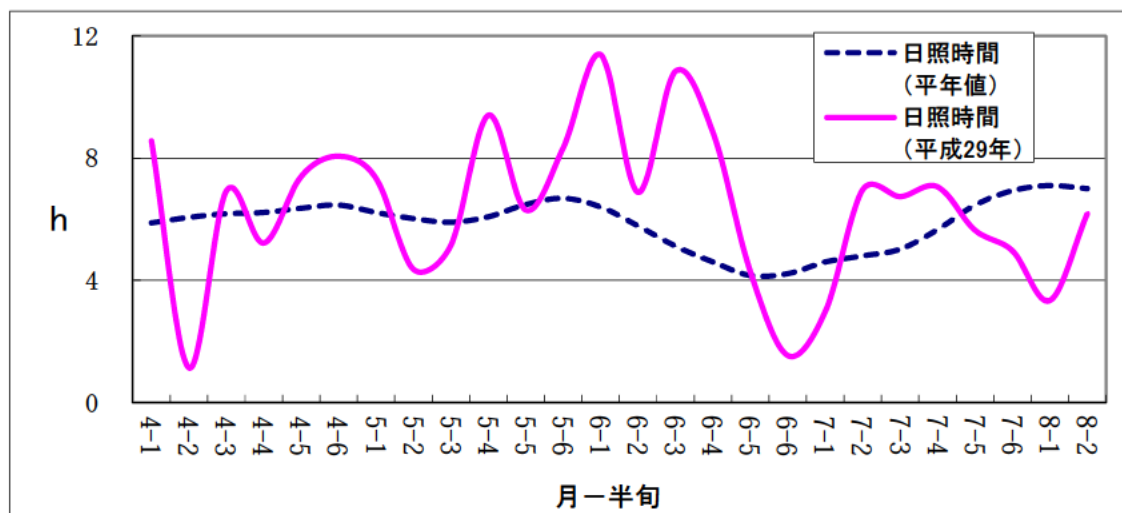
5月中旬は曇天日が続いたものの、その後、7月下旬にかけては、降水量はかなり少なく経過しました。梅雨入りは、6月7日と平年に比べ1日早くなりました。また、梅雨明けは7月19日にしたとみられます。しかし、6月第5半旬と台風5号の影響で8月第2半旬にまとまった降雨がありました。



### <日照時間>

5月～6月中旬にかけて日照時間は、平年に比べかなり多く経過しました。

7月中旬は晴天の日が多かったことから平年をやや上回りましたが、6月下旬以降はぐずついた日が多く日照時間は平年をやや下回りました。



### 生育の概況

津管内の水稻は短稈多けつ型の生育でありましたが、登熟期に台風5号の影響から曇雨天が続き、また、局地的な豪雨により部分倒伏しているほ場が散見されます。

稈長は平年に比べかなり短く、穂長はやや短く、穂数は平年並み～やや多くなっています。稔実歩合は比較的良好ですが、倒伏したほ場を中心に乳白粒、発芽粒の発生が心配されます。

出穂期は平年に比べ2～3日早くなっていますが、成熟期はほぼ平年並みに近づいています。

病害虫としては、いもち病は普通期でやや発生したものの少なく、紋枯病はほ場により目立つところがあります。イナゴ、カメムシ類の発生が多く見られます。

### ○水稻生育基準田の調査結果

【平成 29 年 8 月 14 日現在】

品種	調査地点	移植日	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数		出穂期
					(本/㎡)	(本/株)	
コシヒカリ	殿村	4月20日	85	18.2	357.8	29.7	7月16日
	安濃	4月23日	79.2	18.1	231.5	14.5	7月19日
	一志町井生	4月29日	79.8	17.7	371.8	19.3	7月17日

### 【参考】前年同時期の調査結果

【平成 28 年 8 月 12 日現在】

品種	調査地点	移植日	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数		出穂期
					(本/㎡)	(本/株)	
コシヒカリ	殿村	4月21日	97	17.8	347	27	7月17日
	安濃	4月25日	83	20.5	262	18	7月20日
	一志町井生	4月29日	84	18.3	304	16	7月17日

## 今後の栽培管理

### <水管理>

- ・出穂後から収穫7日前までの期間は間断灌水を続けます。水をかける場合はなるべく夕方にしましょう。
- ・水の溜めすぎは根の老化や根腐れの原因となります(根数は出穂前20日頃に最大となり、出穂期には新根がほとんど出なくなります)。
- ・早期落水は未熟粒や胴割れ米等が多発し玄米の品質が低下するので、落水は収穫前7日以降としましょう(玄米の大きさは開花後25日頃に決まります)。

### <適期収穫>

- ・穂の基部に緑色籾数が3~4粒程度残る頃が収穫適期です。また、コシヒカリでは籾水分が26~28%の頃が収穫適期となります。
- ・早刈りは未熟粒(青米や充実不足)の増加、刈り遅れは茶米や胴割粒の増加となり、いずれも品質が低下します。本年は漏生稲の発生が多いことから、刈取時期の判断が難しいと思われます。品質向上のために適期収穫を励行しましょう。

### 水稻生育予測

【平成29年8月13日現在】

品種	移植日	出穂期	成熟期 (平年との差)
コシヒカリ	4月25日	7月19日	8月21日 (0.8日早い)
	5月15日	7月29日	9月 日 (0.7日早い)
	6月10日	8月18日	9月23日 (0.4日早い)
みえのゆめ	4月25日	7月30日	9月 4日 ( - )
	5月30日	8月21日	9月26日 (2.8日遅い)
三重23号	4月25日	7月13日	8月15日 (1.7日早い)
	5月15日	7月26日	8月28日 (0.7日早い)

三重県農業研究所作成の生育予測システム Ver9.2 による予測です。  
気象庁アメダス津観測地点データ(直近10ヶ年の平均気温)を使用

### <乾燥調整>

- ・高温での急激な乾燥は胴割粒の発生が多くなり、食味の劣化も著しいので、平均の毎時乾減率は0.8%を超えないようにします。特に立毛胴割れが生じている可能性がある場合は、毎時乾減率を0.5~0.6%程度とします。
- ・仕上水分は14.5~15.0%を目標とします。玄米の水分が籾がらに移行するために起こる余熱乾燥と逆に青未熟粒の混入が多い場合に起こる水分の戻り現象があります。青未熟粒の混入割合に応じて乾燥機を止める玄米水分を変える必要があります。
- ・カラムシ類等による着色粒が多い場合は、色彩選別機により等級アップを図りましょう。

### <収穫後耕起>

- ・大雨による稲わらの流出防止、漏生籾等の対策のため、収穫後できるだけ早く浅耕(5cm程度)しましょう。